

令和3年度 第1回 学校評議員会議録

開催日時	令和3年8月31日(火)	
会場	北海道室蘭東翔高等学校	
出席者数	学校評議員 5名	学校側 4名
出席者名	佐々木 敏 則 様 柴 崎 孝 紀 様 児 玉 智 明 様 桃 野 直 樹 様 小 柳 淳 一 様	三 条 歩(校 長) 齊 藤 大 助(教 頭) 石 井 祐 介(事務長) 岩 澤 康 徳(総務部長)
校長が意見を求めた事項	学 校 評 議 員 の 意 見 等	
1 校則の見直しについて 2 学校に対する地域からの声を集める方法について 3 進学講習、学力向上の方策について	<p>1・道教委の通知にあるように、教育上必要かつ合理的な範囲内で、社会通念上許容される範囲で校則の見直しをすることには賛成。校則はなぜ必要なのか、何を目的にして制定されているのかなども含め、生徒の自主性を損なわないよう、生徒や保護者も参加できる話し合いの場を設置して、共通理解の上制定することが肝要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個性を生かす教育を実践するとともに、なぜ規則があり、それを遵守する意味を考える教育も更に強化すると良い。 見直し当初は、一部ばたばたするかもしれないが、いずれ落ちつく。高校時代は、精神的にも不安定な時期なので、緩めることにより、その他に影響を及ぼすこともある。髪型の禁止は、「教育目的を達成するために必要な学習上、生活上の規律（校則の定義）」として社会通念上、十分に合理的である。生徒に対するパワハラ等の防止に特段の配慮が求められているので、運用面では、一層の注意が必要である。スマホ（SNS等について）の記述があってもよい。 <p>2・学校が地域に関わる努力をすべきである。地元町会行事等や各種会合への参加が大事。学校と地域のつながりが、共通問題意識を芽生えさせてくれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各町内会での清掃活動、各学校の部活動での交流（特に地域老人との文化交流）により活性化できればよい。 メールやホームページ、学校公式ツイッターなどのオンラインによる方法や、従来からある郵送や直接学校に持ってきていただく手段があってもよい。 <p>3・看護医療系列の生徒を対象に、市立室蘭専門学院への特別推薦枠の設定を市に要請するなど、推薦枠確保の取組も進めるのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路目標を早く設定し、それに合わせた教育活動が、学力向上につながると考える。 「進路の手引き」が、生徒目線で大変充実した内容だ。モチベーションを上げるために、主な進学先からの出前授業等を行い、高大連携をより発展させていくことが不可欠である。上級学校入学後に「のびる」ためには、普段の学習習慣や自ら学ぶ姿勢が大事なので、それが身につくよう指導するのが、入試対策と進学後の両方に役立つ。 	
上記のとおり会議を開催した。		
令和3年8月31日 北海道室蘭東翔高等学校長 三 条 歩		

※ 別の書式により意見聴取の内容を整理している場合は、それを添付し保管すること。

※ 配付資料等を添付し保管すること。